

福島経済マンスリー

1月の県内経済は、生産活動等が厳しい状況にあるものの、全体では持ち直しの動きが続いている。

1. 平成25年1月の県内経済

項目	コメント	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、生産活動が前年を下回る水準で推移しているものの、全体では公共投資や消費動向を中心に持ち直しの動きが続いている。	→	
消費動向	大型小売店販売額は、飲食料品を中心に前年を上回り、16ヵ月連続で前年比で増加した。一方、新車登録台数は、16ヵ月ぶりで前年を下回った。	→	
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数が3ヵ月連続で前年を下回ったが、請負金額と保証金額は18ヵ月連続で前年を上回った。	→	
設備投資	民間・非居住用建築着工は、床面積が4ヵ月ぶりで前年を下回ったが、棟数および工事費予定額が4ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。	→	
住宅投資	新設住宅着工戸数は、持家が5ヵ月ぶりで前年を下回ったが、貸家と分譲がそれぞれ5ヵ月連続で前年を上回ったことから、合計でも5ヵ月連続で前年を上回った。	→	
生産活動	鉱工業生産指数は、4ヵ月ぶりで前月を上回ったが、7ヵ月連続で前年を下回った。	→	
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値で前月を上回り、原数値で前年を上回った。一方、雇用保険受給者実人員は前年を下回った。	→	

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（↗：改善、→：不変、↘：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3ヵ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3ヵ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較により、それぞれ判断している。ただし、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。なお、公共投資および設備投資は6ヵ月加重移動平均値による判断、民間・非居住用建築着工および鉱工業生産指数は12月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

良 い

悪 い



2. 県内経済動向の概要

(1) 前年同月比

(単位：%)

	項 目	前 年 同 月 比					
		24年8月	9 月	10 月	11 月	12 月	25年1月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	6.6	6.2	3.0	8.2	6.7	0.9
	乗用車新車登録台数	38.6	6.0	4.0	6.5	8.2	▲ 0.5
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	194.3	98.8	128.0	82.0	87.6	52.4
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	▲ 49.0	172.0	123.5	54.2	23.9	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	▲ 23.2	76.3	90.0	43.9	41.8	3.8
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	▲ 5.4	▲ 7.8	▲ 5.3	▲ 3.7	▲ 5.6	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注1	0.40	0.37	0.40	0.44	0.47	0.45
	雇用保険受給者実人員	▲ 60.5	▲ 59.1	▲ 54.7	▲ 50.7	▲ 46.2	▲ 35.2

注1 原指数

(2) 前月比

(単位：%)

	項 目	前 月 比					
		24年8月	9 月	10 月	11 月	12 月	25年1月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	1.1	▲ 9.7	5.5	2.3	27.5	▲ 19.2
	乗用車新車登録台数	▲ 28.3	12.6	▲ 12.6	7.0	▲ 21.2	25.3
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	36.9	▲ 12.0	0.7	▲ 31.9	16.4	▲ 44.0
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	▲ 38.9	215.1	▲ 2.2	▲ 48.6	0.2	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	▲ 9.6	30.4	30.0	▲ 9.3	▲ 21.7	▲ 13.2
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注2	0.0	▲ 0.2	▲ 2.3	▲ 0.6	5.0	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注2	0.01	▲ 0.03	0.02	0.07	0.08	0.05
	雇用保険受給者実人員	▲ 0.5	▲ 8.5	0.4	▲ 5.4	▲ 4.0	6.5

注2 季節調整値

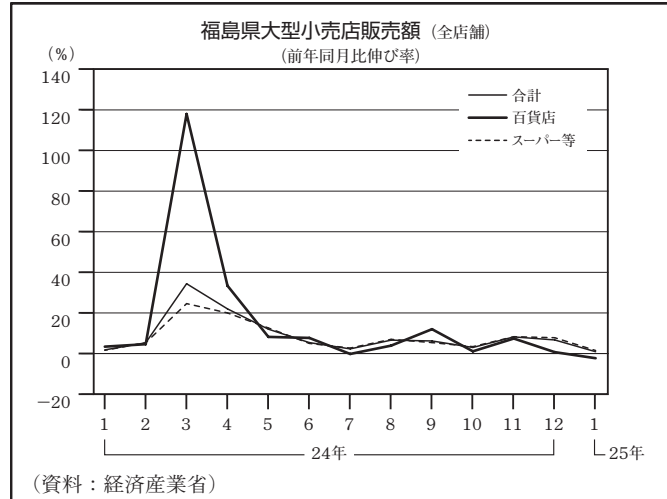
3. 県内経済動向

※ 今月号よりレイアウトを変更しております。

消費動向

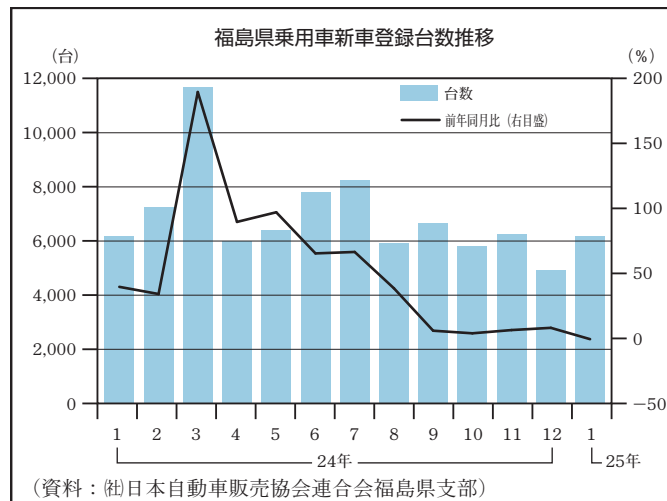
大型小売店：16ヵ月連続で前年比増加

1月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース）は、合計で202億46百万円（前年同月比+0.9%）と16ヵ月連続で前年を上回った。業態別で見ると、百貨店は、衣料品が前年を下回り、合計では前年比△2.3%となった。一方、スーパーは、衣料品が前年を下回ったものの、飲食料品が前年を上回ったことから、合計では同+1.5%となった。



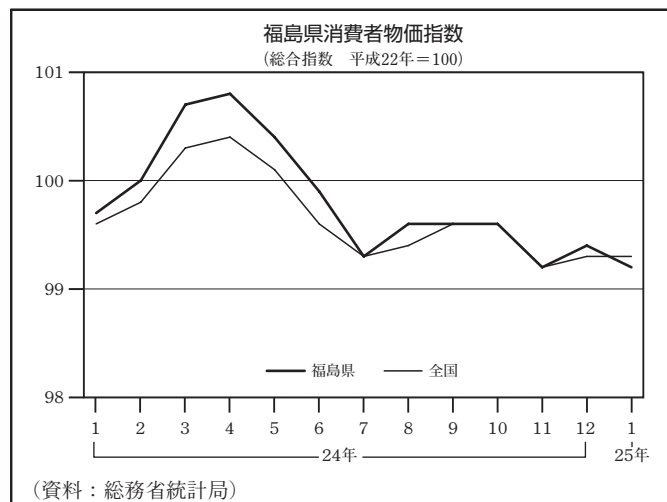
乗用車販売：16ヵ月ぶりで前年比減少

1月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で6,153台（前年同月比△0.5%）となり、16ヵ月ぶりで前年を下回った。車種別で見ると、普通車は1,675台（同△7.0%）と2ヵ月ぶりで、小型車は2,113台（同△6.3%）と16ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回ったが、軽乗用車は2,365台（同+11.2%）と16ヵ月連続で前年を上回った。



消費者物価指数：前月比で0.2%減少

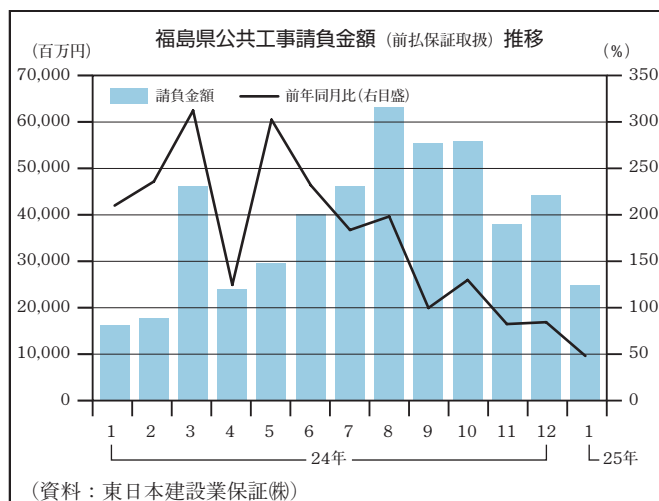
1月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年=100）で見ると、99.2と前月比で△0.2%、前年同月比で△0.5%となった。費目別にみると、「食料」の99.6（前月比+0.7%）など4費目が前月比で上昇したが、「被服及び履物」の96.4（同△6.1%）など4費目が前月比で下降した。



公共投資

公共工事：請負額は18ヵ月連続で前年比増

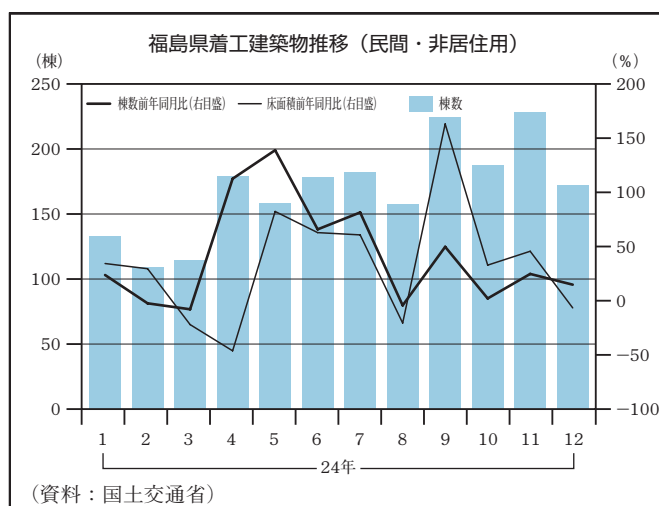
1月の公共工事前払保証取扱は、件数が414件（前年同月比 Δ 29.2%）と3ヵ月連続で前年を下回った。一方、請負金額は248億13百万円（同+52.4%）、保証金額は112億87百万円（同+51.6%）となり、それぞれ18ヵ月連続で前年を上回った。



設備投資

設備投資：工事費予定額が4ヵ月連続で前年比増

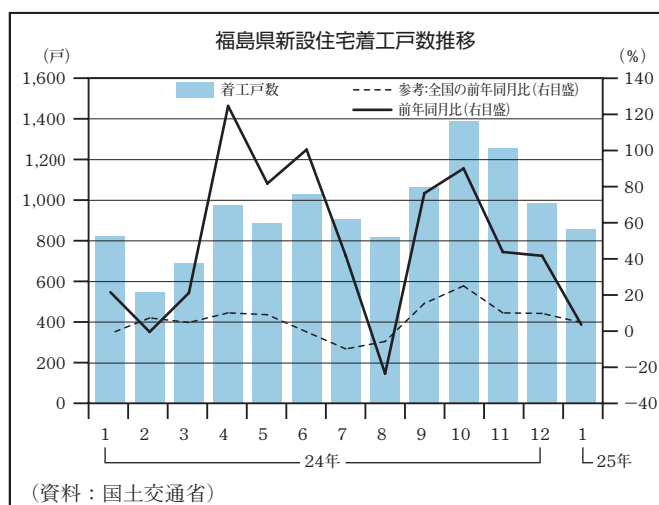
12月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が172棟（前年同月比+15.4%）、工事費予定額が97億30百万円（同+23.9%）とそれぞれ4ヵ月連続で前年を上回ったが、床面積は55,781㎡（同 Δ 6.0%）と4ヵ月ぶりで前年を下回った。



住宅投資

住宅建設：5ヵ月連続で前年比増

1月の県内新設住宅着工戸数は、854戸（前年同月比+3.8%）と5ヵ月連続で前年を上回った。主な利用関係別にみると、「貸家」は357戸（同+18.2%）、「分譲」は54戸（同+28.6%）と5ヵ月連続でそれぞれ前年を上回ったが、「持家」は443戸（同 Δ 5.7%）と5ヵ月ぶりで前年を下回った。

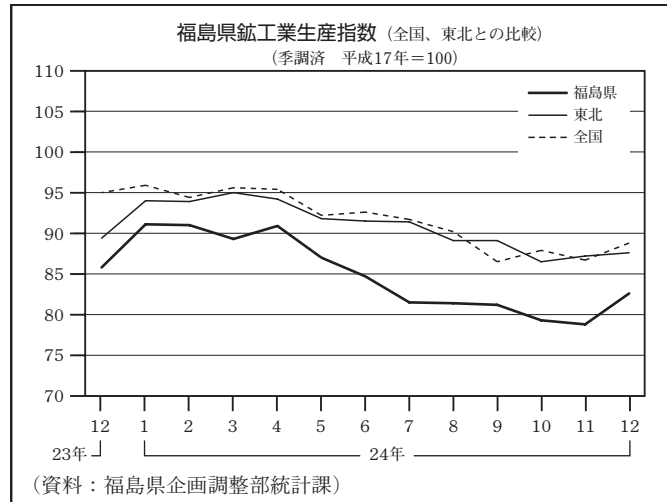


生産活動

鉱工業生産指数：7ヵ月連続で前年比減

12月の鉱工業生産指数は、82.6（季節調整値）で前月比+5.0%と4ヵ月ぶりで前月を上回ったが、原指数は79.9で前年同月比△5.6%と7ヵ月連続で前年を下回った。業種別の季節調整値をみると、「情報通信機械工業」（前月比+26.5%）など9業種で上昇し、「精密機械工業」（同△27.3%）など11業種で下降した。

※福島県では、調査対象企業のうち、震災の影響により調査できない約3%の企業の生産額は0として処理している。

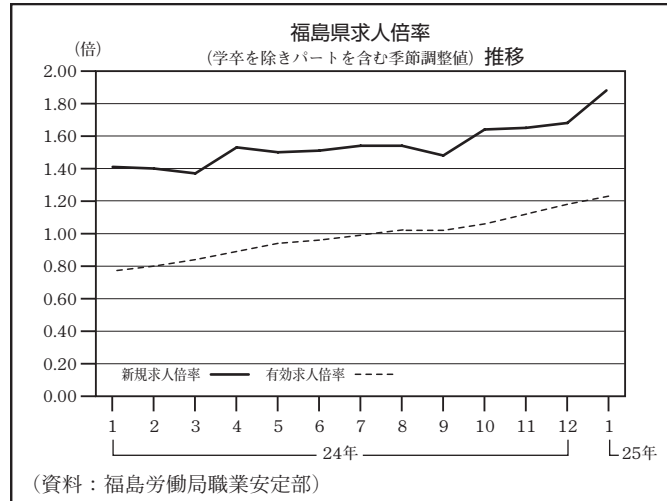


雇用動向

雇用動向：有効求人倍率は全国2位

1月の新規求人倍率は、季節調整値が1.88倍（前月比+0.20ポイント）、原数値が1.65倍（前年同月比+0.39ポイント）となった。また、1月の有効求人倍率は、季節調整値が1.23倍（前月比+0.05ポイント）と宮城県に次いで全国2位となり、原数値が1.23倍（前年同月比+0.45ポイント）と34ヵ月連続で前年を上回った。一方、1月の雇用保険受給者実人員は7,924人（△35.2%）と11ヵ月連続で前年を下回った。

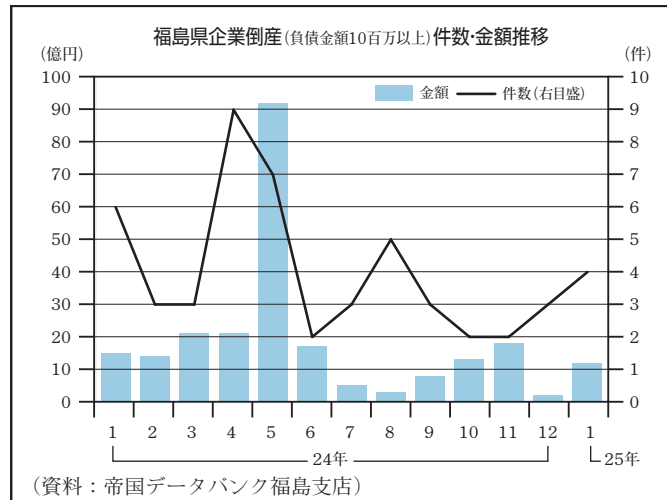
※12月の有効求人倍率は、季節調整値1.18倍で全国1位と発表されたが、その後の再計算で全国2位と修正された。



企業倒産

企業倒産：件数・金額とも前年を下回る

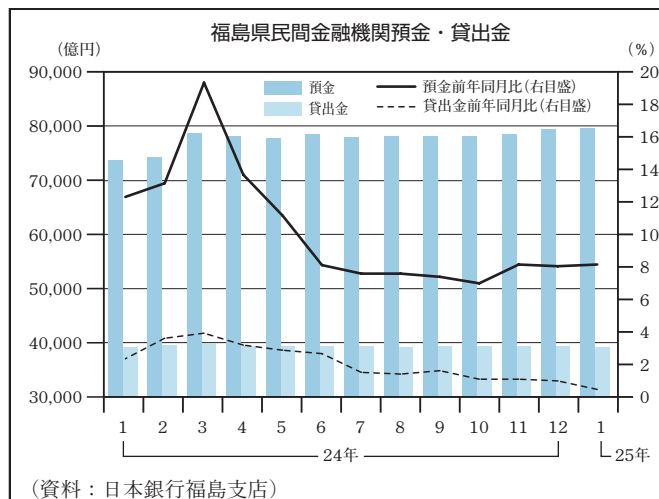
1月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が4件（前年同月比△33.3%）、負債総額が11億98百万円（同△17.4%）と件数が9ヵ月連続、負債総額が2ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。また、業種別でみると、建設業、製造業、卸売業、運輸・通信業がそれぞれ1件となった。



金融動向

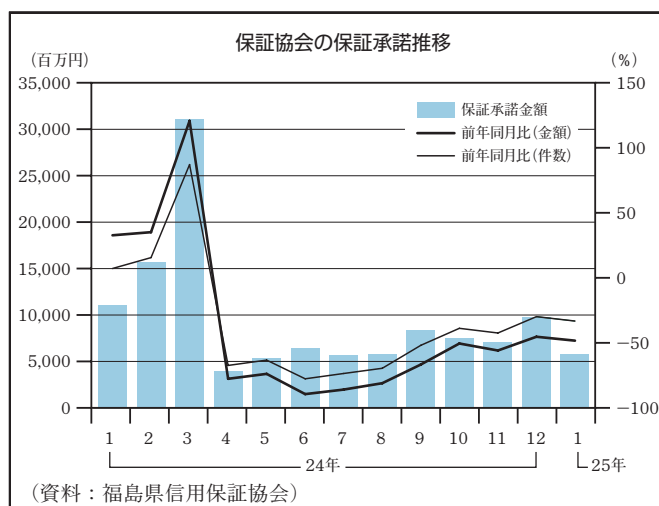
資金需給：預貸金ともに前年比増

県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の1月末の預金残高は、7兆9,830億円（前年同月比+8.2%）と72ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆9,202億円（同+0.4%）と20ヵ月連続で前年を上回った。



保証協会：保証承諾は件数・金額とも前年比減

1月の保証承諾は、件数が575件（前年同月比△33.1%）、保証金額が57億48百万円（同△48.2%）となった。また、1月末日現在の保証債務残高は、件数49,488件（同+0.1%）、金額4,763億91百万円（同△3.5%）となった。一方、1月中の代位弁済は、件数が17件（同△48.5%）、金額が1億42百万円（同△57.5%）となった。



4. 業種別動向

消費動向

家電量販店 1月の家電量販店の売上高は、携帯電話や冷蔵庫、エアコンの売上が前年を上回ったものの、テレビやDVDプレーヤーなどの落ち込みが大きく、合計では前年を15%程度下回った。

ホームセンター 1月のホームセンターの売上高は、飲食料品などを中心に前年を上回り、合計でも前年を10%程度上回った。

旅行 1月の旅行取扱額は、個人向けの海外旅行が好調だったものの、国内旅行では前年実施された行政主催の団体旅行による反動減がみられたため、合計では前年実績を下回った。

高速道路 1月の県内自動車道出入口数は、合計で4,367,838台（前年同月比△41.5%）と7ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,387,309台（同△44.0%）と8ヵ月連続で前年を下回った。一方、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は389,813台（同△39.1%）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は589,596台（同△49.3%）、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は1,001,120台（同△28.7%）となり、それぞれ7ヵ月連続で前年を下回った。

福島空港 1月の福島空港国内定期路線の利用状況は、14,856人（前年同月比+16.6%）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は6,235人（同+26.6%）、大阪便は8,621人（同+10.2%）となった。（国際定期路線は全便運休）

生産活動

化学 1月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内向けがほぼ横ばいで推移したものの、欧州向けが低調であることに加えて、中国の需要が減少傾向にあることから、総体では前年を下回る水準となった。また、リチウムイオン電池も電気自動車向け需要を見込んでいたものの、電気自動車の普及が遅れていることなどから、減産傾向にある。

鉄鋼・金属 1月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が前年比で10%程度減少した。また、半導体向け電子材が、円高と低調な欧米経済の影響、新興国の製品との競合などから、前年を10%ほど下回った。建機用鋳造品は、中国以外のアジア諸国やオーストラリア、アメリカの受注が堅調だったものの、中国の受注が減少したことから、合計でも前年を30%以上下回る生産となった。一方、陸船用バルブは、火力発電向けの受注残はあるものの、それ以外の受注量が低下していることから、前年を10%程度下回る生産となった。

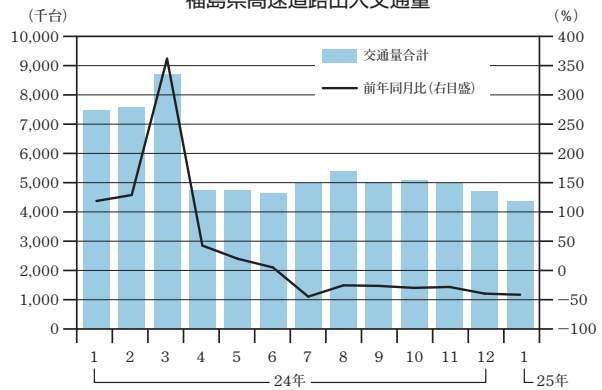
輸送用機械 1月の鋳造品は、トラック向けではタイヤが堅調だったものの、インドネシアで一服感がみられたことなどから、合計では前年をわずかに下回る生産水準となった。また、カーナビおよびカーオーディオも、米国の需要が上向いているものの、円安効果はまだみられず、在庫調整もあったことから、前年を10%ほど下回る生産となった。さらに、オイルシールも、中国の需要が振るわないことなどから、前年比で約10%の減産となった。

電気機械 1月の変圧器は前年を下回る生産となったが、自動車向けモーターおよび配電盤は前年比で増産となった。

情報通信機械 1月の情報通信機械は、国内向けモバイル基地局が堅調な生産を続けたが、マイクロ波通信機器などの無線通信機器がインドを中心とした海外需要の減少から減産となったため、合計でも前年をわずかに下回る生産となった。

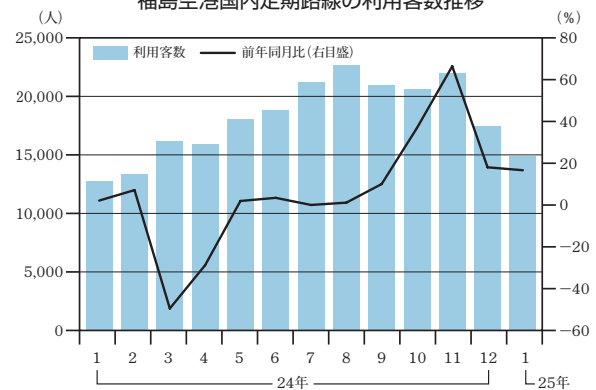
電子部品・デバイス 1月のLSI(大規模集積回路)の生産は、車載品およびAV・ゲーム機・家電、産業機器向けが半導体の需要が依然として低調なことや日中関係の悪化による影響もあり、いずれも前年を下回った。

福島県高速道路出入交通量



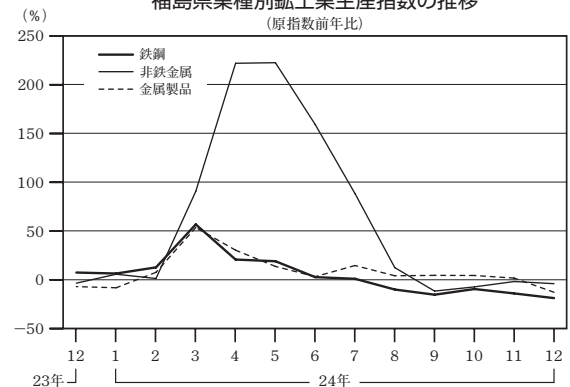
(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

福島空港国内定期路線の利用客数推移



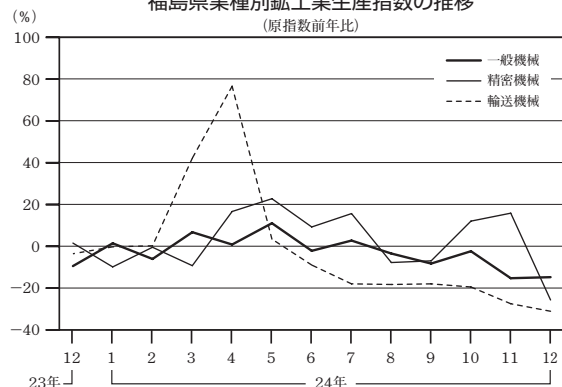
(資料：福島県商工労働部空港交流課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移 (原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移 (原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計課)

精密機械 1月の医療用内視鏡は、欧米向け高付加価値新製品に加え、国内向けでも新製品の生産が始まったことなどから、合計でも前年を上回る生産となった。一方、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、欧州の需要が回復しないことなどから、前年を30%ほど下回る生産となった。

紙・紙加工品 1月のノーカーボン紙および感熱紙、インクジェット紙とも、輸入品との競合による影響などから、前年をわずかに下回る生産となった。一方、ダンボールはほぼ前年並みの生産を続けた。

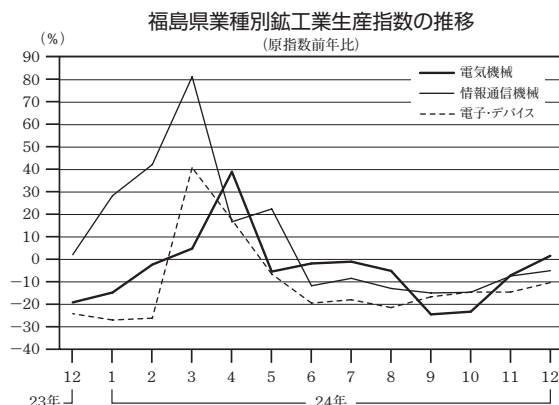
窯業・土石 1月の生コンクリート出荷量は、全体で105,508m³（前年同月比+22.4%）と18ヵ月連続で前年を上回った。民需・官公需別にみると、民需は、相双地区の火力発電所保安対策工事、白河地区の携帯電話鉄塔工事など、県北といわきを除いた4地区で前年を上回ったため、合計では前年比で+14.3%となった。また、官公需は、いわき地区の岸壁復旧工事や防潮堤工事、県中地区の郡山市役所改修工事など、会津と白河を除いた4地区が前年を上回り、合計では同+34.9%となった。

清酒 1月の清酒移出数量は、815kl（前年同月比△3.7%）と10ヵ月連続で前年を下回った。酒類別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が386kl（同+0.5%）と2ヵ月ぶりで前年を上回ったが、一般酒（特定名称酒以外の酒）が429kl（同△7.1%）と10ヵ月連続で前年を下回った。

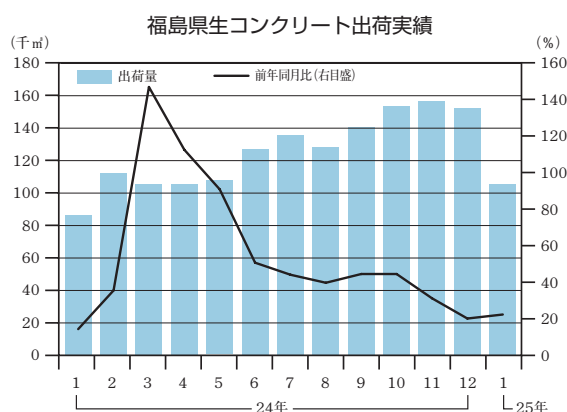
化合繊維物 1月の化合繊維物は、数量ベースでは前年を40%ほど上回ったものの、単価の低い製品の割合が高いことから、金額ベースでは前年を10%以上下回った。

ニット 1月のニットは、春夏物製品を中心とした生産となり、全体では前年を20%ほど上回る水準となった。

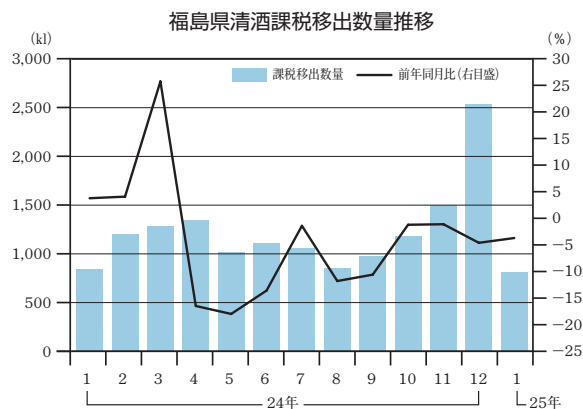
大口電力 1月の大口電力販売量は、424百万kw/h（前年同月比△14.8%）と6ヵ月連続で前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で77百万kw/h（前年同月比△40.4%）、「電気機械」で75百万kw/h（同△9.0%）、「輸送用機械」で50百万kw/h（同△7.4%）、「化学」で41百万kw/h（同△11.6%）、「一般機械」で23百万kw/h（同△6.9%）、「紙・パルプ」で14百万kw/h（同+13.6%）となっている。



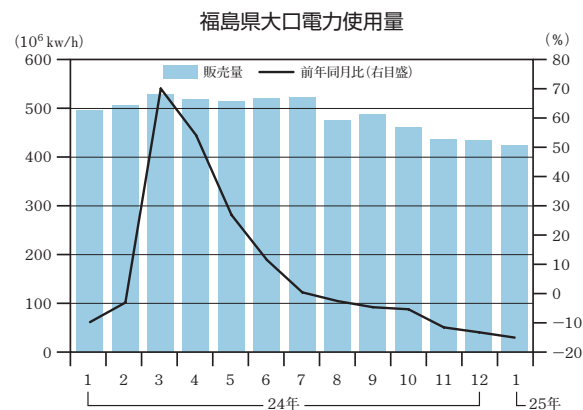
(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)